

# 長 沢 鼎 英 文 日 記

長 沢 鼎 著  
門 田 明 訳

## ま え が き

この日記は、『鹿児島県立短期大学地域研究所年報』第9号（1980）に、「長沢鼎研究 III Diaries of Kanaye Nagasawa (reproduced by Gaye LeBaron)」という表題で紹介した、英文日記（1871年1～4月）の日本語訳である。今回は1～2月の2月分を収録した。

長沢鼎は1852年、現在の鹿児島市に生れ、幼名を磯長彦輔といった。1864年、薩摩開成所に入学、65年派英留学生計画が実施されると、15人の一人に選ばれイギリスに派遣された。同年8月、スコットランドのアバディーンに送られ、同地の中学校で学んだ。1867年、森有礼など、留学生中の5人と行動をともにし、アメリカに渡った。のちカリフォルニアのサンタローザでワイン醸造業を営み成功した。60余年をアメリカで暮らし、最初の永住日系人として、またカリフォルニア・ワイン産業の功労者として、1934年同地で亡くなった。遺骨は戦後帰国し、鹿児島市冷水町興国寺墓地に埋葬されている。

ところで、この日記は、かれが渡米後、ニューヨーク州ブロクトンで、宗教家トマス・ハリスの教団「新生兄弟社」の一員として、修行の道を歩んでいた頃のものである。最初渡米の6人全員がこの教団に参加したが、やがて意見の相違が生まれ、最後に長沢ひとりが残ることになった。その後、一部の友人から彼にたいし、兄弟社からの脱退勧告が続いたようで、苦闘の毎日を送っている。一方、森有礼などは、帰国後もハリスと親交を続け、アメリカ公使としてワシントン赴任の際は、ブロクトンに立ち寄り、ハリスの助言を求めたりしている。この時、森の紹介で、新井奥邃が、兄弟社の一員となるが、この日記はその状況などにも触れていて、森や新井の思想の源流をたどる、貴重な史料になっている。

英文原典は長沢の甥である佐々木英吉氏が所有していたものであり、上記『年報』掲載の文章は、サンタローザの地方史家ルバロン女史の翻刻によっている。日本語訳を志したのは英文を日本文に移し変えることによって、長沢が直面した生活と思想の実体を自分なりに理解できるかと思ったからである。しかし、これは予想以上に困難な仕事であった。

まず、兄弟社のメンバーは、兄弟社内部での通称ないし信仰名とでもいうべきものを持ち、実名ないし俗名との二重生活をしている。また日本人留学生も実名と変名を持つものがあり、時により、人物の特定が困難なことがおこる。第二に、「兄弟社」の農園の施設の配置図などがなく、たとえば「レストラン」など固有名詞のように用いられている場所が、兄弟社の施設なのか、それとも一般のレストランなのか、判別しにくいことがある。

第三にハリスの特殊な神秘思想の内容が難解で、use, sphere など教団内の常用語であっても、翻訳が困難な場合がある、などなどである。

しかし、とにかく、定年によって近く地域研究所を去るにあたって、不満足ながら、これまでの研究の中間報告としてまとめることにした。識者の批判を頂くことにより、正確な理解への一歩としたい。このように自らの勉強が目的でもあり、訳文は読みやすく説明的なものにした。疑問を感じられる時は、上記の英文日記を参照されるよう、お願いしたい。

## 1871年 1月

### 1月1日(日)

ファーザー (Father) [Thomas Lake Harris] とダビー小母さん (Aunt Dovie), それにゴールデン・ローズ小母さん (Aunt Golden Rose) はヴァインクリフ (Vine Cliff) に出掛けて行った。ファーザーは、「聖務」(Use) にたずさわるメンバーの何人かを呼んで、将来の「聖務」遂行の発展について話し合ったそうだ。そこでもまた「連隊」(Series) が創られ、各「連隊」によって各人が雇用され、外部の人々やC [Cuthbert Sr. ?] と同様給料を受け取る。この新しい形態は、永久に続けられるもので、人々が常に自己を高め主に近づきつつあるか、それとも利己心の中に沈んでゆくのか、絶えず明らかにするだろう。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんは、ファウラーさん (Mr. Fowler) が所用でニューヨークに発つので、午後の汽車で持って行ってもらうため、ビオラ小母さん (Aunt Viola) [レイディ・オリファントーLady Oliphant] の品物をまとめるのに、かかりきりだった。私はグレンサイド (Glenside)に残って、出来るだけの仕事を全部やった。私はこれまでに、これほど悲しい不幸な元旦を送ったことがない。私が自分の心を深く究明するとき、私の過去の行い、思い、目的がすべて利己心に発するものだと気づいたのである。しかし、この新年を始めるにあたって、私が切に願うのは、自己放棄をもって、さらに高く、さらに深く主にあって仕えるということである。

### 1月2日(月)

昨夜、ファーザーはレイさん (Mr. Lay) のことでとても心を苦しめ、ほとんど死ななばかりであった。私は酪農場 (Dairy Farm) にマーチン博士 (Dr. Martin) を訪ね、手紙をわたしてそれをバーズネスト (Bird's Nest) のレイさんに届けてもらうよう頼まなければならなかった。アーサー・C小父さん (Uncle Arthur C) [Cuthbert Sr. ?] は駅までレイさんをつれてゆき、彼は7時の汽車で去って行った。ファーザーは2時間あまりも、レイさんのことで苦しんでいたが、彼が行ってしまうと、すぐに具合がよくなった。ファーザーは大急ぎで降りてくると、すぐに古くなった水車小屋に出掛けてゆき、洪水からまも

るために、材木も機械も水車本体も、全部木造の小屋に移してしまった。ダビー小母さんは店 (the Store) に出掛けファーザーといっしょにレストラン (the Restaurant) で食事をした。今日からファーザーはレストランで食事代を払いはじめたということだ。ダビー小母さんも、ファーザーも、二人とも、自分たちで賛成した〔文字不明〕のことで、一日中働きすぎて、すっかり疲れてしまっている。ダビー小母さんは頭痛であわれな顔をしている。ゴールデン・ローズ小母さんと私は、この世の生命について、最高に面白い、楽しい話をした。私は大きな光明を得た思いになり、有益なことであった。ジェイミー・ファウラー (Jamie Fowler) は私たちと食事を取りはじめた。ダビー小母さんは私に、ジェイミーと私がそこで眠れるように「あずまや」(Bower) を修理するつもりだと教えてくれた。

### 1月3日 (火)

ダビー小母さんの話では、ファーザーは、小母さんから店を全部取り上げてしまって、アイダ小母さん (Aunt Ida) を代わりに置いたのだという。デメレストさん (Mr. Demerest) がやってきた。うまくやって行けると思うので、俗世間に帰って製缶業をつづけたいというのだ。「やれるだろう」とファーザーが言ったので、彼は今日ロチェスター (Rochester) に発った。彼は、天父の威令の行われるこの場所に耐えることができなかったのだろうと思う。ダビー小母さんはコーネル大学 (Cornell University) のホワイト学長 (President White) とパトナム先生 (Mr. Putnam) に手紙を書いて、私がカレッジにもう戻らないことの断りを言ってくれた。野村 (Nomura) [野村市助] は湯地 (Uchi) [湯地定基?] からの手紙を受け取り、私に手紙でニューブランズウィック (New Brunswick) を目指すのがよくはないか、といって来た。それで私はホテル (the Hotel) にでかけ、そのことを彼と話し合った。

### 1月4日 (水)

グレイス姉さん (Cousin Grace) はホテルでの「働き」(sphere) を続けてゆくことができないので、野村、ドーラ (Dora) それにテディ (Teddy) とヴァインクリフに行くということだ。アイダ小母さんはロッジ (the Lodge) に移り、酪農場は閉鎖されるという話だ。やさしいダビー小母さんは、私の金を送ってくれるよう杉浦 (Soogiwoola) [杉浦弘蔵=畠山義成] に手紙を書くのを手伝ってくれた。ゴールデン・ローズ小母さんは今日は気分がいい。しかし彼女の話ではシービー (Seavy) のことが自分から離れないということだ。彼女は私にステッドファスト小父さん (Uncle Steadfast) [Mr. Requa 死亡] が昨夜現れたのだと教えてくれた。彼女の話では、オリファント (Oliphant)、シービーとレイがゴールデン・ローズ小母さんをひどく傷つけ、彼女に堪え難いほどのしかかっているということだ。今日もファーザーはまだひどく悩んでいる。人々が彼にしがみつ、彼

にあまりに頼りきっていると感じるためなのだ。

#### 1月5日（木）

ファーザーはゴードンさん（Mr. Gordon）[Craigie Gordon, Scotchman] を呼び、彼と談合した。きょうからトム・バックナー（Tom Buckner）がヴァイン・クリフに住むことになり、ゴードンさんに代わってチームの面倒を見るということなのだ。ファーザーは非常に調子が良いようで、ダビー小母さんもゴールデン・ローズ小母さんもそうだ。スエーデン人達（Swedes）が今日6頭の牡牛を殺し、贈物として、ファーザーのところにその皮を持ってきた。ダビー小母さんはレストランと酪農場に行き、5時30分までもどって来なかった。ファーザーは馬車馬二連、灰色と栗毛を「あずまや」の厩舎で飼っている。スエーデン人達は村のベーコンの工場（Bacon's mill）に行つて木材を運搬する仕事に従事している。ウォーターマン（Waterman）が今日夕方、大きな豚を連れてきた。

#### 1月6日（金）

ファーザーは昨夜、とても苦しい夜を過ごしたそうだ。ダビー小母さんとファーザーは櫓でブドー酒貯蔵庫（the Wine Cellar）にでかけた。しかし、5時にならぬうちにもどってきた。ファウラーさんは今日家に帰ってきた。今日は私にとって、厳しい克苦の一日であった。夕方私はジェイミーと酪農場に櫓に乗って行った。

#### 1月7日（土）

ファーザーはとても悩んでおられるそうだ。村（the Village）で教会会議がひらかれたのだがファーザーは行かなかった。大変な争いになることが彼にはわかっていたからだ。私はアーネスト（Earnest）[Pitt Buckner] とモスさん（Mr. Moss）にファーザーからの手紙を持って行った。今日の午後はファーザーもダビー小母さんもゴールデン・ローズ小母さんも、とても調子がいい。シルベスター（Sylvester）がこちらに来て、私たちのために豚を解体してくれた。毎日が、一日一日と困難になってゆく。そして光明もない。ゴールデン・ローズ小母さんが今晚言った言葉を借りれば、「私はカスカディラ（the Caseadilla）[コーネル大学の寄宿舍名] とカレッジの生活ですっかり精気をなくしてしまった。カレッジの生活が私をととても傷つけたのだ。」

#### 1月8日（日）

ファーザーはとても悩んでいた。ダビー小母さんは店の方に行つて、5時まで帰って来なかった。ファーザーは、何か取り決めをするために、今晚ブラウネル夫妻（Mr. & Mrs. Brownell）、アイダ小母さんハイド博士（Dr. Hyde）、ルーシー小母さん（Aunt Lucy）それにバックナーさんと呼んだ。ゴールデン・ローズ小母さんはこの沢山の人たちと連絡を

とるのに、とてもくたびれたようだった。私はいつもと同じように気は晴れなかったが、昨日よりは気分が良かった。グレイス小母さん（Aunt Grace）と彼女の家族がヴァイン・クリフに引っ越してきた。聞いたところによると、コンスタンス（Constance）が酪農場で暮らすため出ていったということだ。今朝は、トム（Tom）に洗濯の勘定を全部払ってしまっただけで私たちは皆愉快的な思いだった。ファーザーは見たところ楽しそうで、前より気分がいいと言っている。前途は素晴らしい。もし食欲の念が起これなければ、前途は最高に素晴らしいだろう。ルーシー小母さんとハイド博士がホテルの管理を引き受けた。

#### 1月9日（月）

ファーザーは悩んでいる。そしてますます我慢ならなくなっている。今朝マーチン博士がこちらへやって来て、マーク（Mark）がやったことをファーザーに話した。彼はすぐ正午の汽車で送り返されてしまった。今日からグレイス姉さんが私たちの勉強を見てくれ始めた。私は調子があまりよくない。ダビー小母さんは、ゴールデン・ローズ小母さんとレストランに行き、またすぐこちらに帰って来た。

#### 1月10日（火）

ファーザーはシービーの仕事のことと、グラント（Grant）のことでまだ頭を痛めている。

私には、彼がまるで「聖務」にたずさわっているすべての人のために、頭を痛めつづけているように思えた。ゴールデン・ローズ小母さんも同じシービーの仕事のことで、頭を痛めつづけているのだ。ジェイミーと私は櫓に乗ってヴァイン・クリフに勉強に行った。そして酪農場をまわってバースネストに女の子用の着物を届けた。

#### 1月11日（水）

ファーザーは大急ぎで降りてくると、ジェイミーに、アイダ小母さんと呼んでおいでと言って、ロッジに迎えにやった。ダビー小母さんは彼女と長い間話していたが、その後シービー家の人達と会うため南農場（South Farm）に出掛けた。ファーザーは今日、ゴールデン・ローズ小母さんに、明日ここを出て行ってもらうよう、C. シービーと決着をつけた、と話した。アイダ小母さんは私たちと一緒に夕食を食べた。私は今日ゴールデン・ローズ小母さんに従順でなかったのがとても申し訳なくて、ほとんど一日中泣いていた。ダビー小母さんは今日私に、私が今直面している困難の中で、おおいに勇気を振るい起こさなければいけない。でないと私は駄目になってしまう、と教えてくれた。ファーザーはヴァイン・クリフにやって来てしばらくの間、私たちが日課の暗唱をしているのを聴いていた。ジェイミーと私は、ヴァイン・クリフから椅子一脚とトランクを運んで来た。ダビー小母さんは私に、ファーザーが「私たちの学校（Our school）にはとてもいい雰囲気

気がある」と言ったと教えてくれた。

#### 1月12日（木）

ファーザーには苦しい一日だった。シービーは今日出て行った。ゴールデン・ローズ小母さんは気分が良くなった。シービー家の人達が彼女を攻撃するのをやめることになったからだ。ゴールデン・ローズ小母さんは今日はほとんど一日中豚の脂をとりラードをつくるので苦労していた。今晚、ファウラーさんがダビー小母さんに会いに来たが、話している最中にファーザーが台所に入って来て、ファウラーさんに、ファーザーとダビー小母さんを傷つけるような事を話すのなら、もうこれ以上来ないでもらいたい、と言った。すると彼は声高に何か言いたてていた。ファーザーはこのことでひどく苦しんだ。

#### 1月13日（金）

ファーザーはファウラーさんのためにもち上がった争いのために、極度の疲労を感じている。「聖務」遂行上、目下の最大関心事は、ホテルのところに事務所を建てること、それから酪農場に乾草の圧搾機を設置することだ。ファウラーさんはファーザーに厚かましい手紙を沢山書いてよこした。私は熱いトムロコシの粥で食道を火傷して、とても憂鬱で体がきつい。固形食でも流動食でも、一口入れるごとにとても痛む。ファーザーは排水施設（the Draining）を見に行き、それからレストランにまわり、5時まで戻らなかった。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんと私は、ホール先生（Dr. Hall）に診察してもらうためにレストランに行った。しかし汽車が遅れ、結局彼は来なかった。私は学校には行かなかった。ゴールデン・ローズ小母さんが、学校は休んで寝ている方がいいと言ってくれたからだ。ダビー小母さんとファーザーはレストランで昼食を取り、夕食は戻って6時頃食べた。

#### 1月14日（土）

ファーザーは悩んでいたが以前より頑強になったようだ。で、私たちだれもが、あらゆる点でより強められ、より健康になったように感じた。ファーザーは昨日とても悪性の風邪をひきこんで、耳が痛むという。ダビー小母さんはファーザーの耳にガルバニック・バッテリーを使った。自分でもそれを使った。午後ファーザーとダビー小母さんは四輪馬車に乗って、乾草圧搾機のとりにつけを見に酪農場に行った。それからレストランにまわった。ゴールデン・ローズ小母さんと私はレストランにホール先生の診察を受けに出掛けたが、先生は結局来なかった。今夜からジェイミーと私は「あずまや」で泊まることになった。ファーザーはファウラーのことで、あまりひどく頭を悩ませたので、ジェイミーがレストランまでベッシー小母さん（Aunt Bessie）に伝言を届けに行かねばならなかった。彼はグレンサイドで泊まった。ファーザーとダビー小母さんは階下で眠った。

## 1月15日（日）

ファーザーは極度に悩んでいるようであった。ダビー小母さんとファーザーは家にいた。産業審議会（Industrial Council）の集会が開かれるはずだったが、ファーザーの体の具合が悪くて中止になった。今朝ジェイミーは、審議会が開けないということを知らせてもらった。ダビー小母さんがわたしに話してくれたところでは、ファーザーは昨日ファウラーさんの件を、霊的に最も素晴らしいやり方で解決したということだ。アルフレッドとコンスタンスとアーネストがほんの数日前、モーニング・ランド（the Morning land）で暮らすため出掛けたという。酪農場ではもう今、誰も仕事をしていない。肉体的健康に関する限り、私は良くなってきたように思う。が、精神的にはとても困難で重苦しい気分だ。

## 1月16日（月）

ファーザーは今日もファウラーさんのことで苦しんでいる。ダビー小母さんはファウラーさんに会いにレストランに出掛けたが、ベッシー小母さんとジェイミーも連れて行った。私はヴァインクリフに勉強に出掛け、ダビー小母さんも、今日何か取りにやってきた。私が学校から帰ってくると、ジェイミーはベッシー小母さんをグレンサイドに連れ戻すためにレストランに出掛けていて、いなかった。小母さんは随分長い時間こちらにいた。ベッシー小母さんがここから帰ってゆく時、彼女とジェイミーといっしょにダビー小母さんも、ファウラーさんに会いに出掛けた。ジェイミーは12時になるまで「あずまや」に戻って来なかった。とても苦勞の多い一日でゴールデン・ローズ小母さんはとても悲しそうにしていた。

## 1月17日（火）

ファーザーは今日も耳が痛くて、先週の土曜から外出をやめている。ホール先生が治療のためファーザーとゴールデン・ローズ小母さんと私を診察に来た。ダビー小母さんは午前も午後も、ずっと家庭訪問に出掛けた。彼女は南農場にでかけた。野村は〔工藤？〕に手紙を書き、彼の父親と〔杉浦？〕宛の手紙を同封した。

## 1月18日（水）

ファーザーは具合が良くなってきたようだ。ずっと良さそうに見える。しかし彼は、自重してまだ家から出ない。今夜ファーザーは口述筆記をさせているということだ。ジェイミーとサム（Sam）は南農場から鶏を何羽か持ってきた。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんは駅まで出掛けた。私は元気が出なくて、一日中何も手につかぬ有り様だった。

#### 1月19日（木）

ファーザーは今日はずっと良くなってきたようで、「あずまや」まで出掛けて行った。昨日と今日、ダビー小母さんは「あずまや」で店を開く決心が固まってきたようだ。私は今朝、ファーザーが賛美歌「汗して働け」〔Come...with sweat and toil come〕の構想ができたという話を聞いた。今夜聞いた話では、ファウラーさんがファーザーに、カリフォルニアに行くつもりだと書いてよこしたということだ。

#### 1月20日（金）

ファーザーは歯痛でとても苦しんでいる。ダビー小母さんは村に出掛けて、遅くまで戻って来なかった。彼女はファウラーさんが日曜にここを出てゆく予定なので、書類などを整えておかねばならなかったためだ。私はコーネル大学から身のまわり品の入った箱を受け取った。毎日が暗くて悲しい。

#### 1月21日（土）

ファーザーは7時30分の汽車でウェストフィールド（Westfield）の歯医者に行き、12時の汽車で帰って来た。私は今日とても気がふさいだので、夜明けそこそこに「あずまや」に出掛けた。しかし私が床に就く前に、ジェイミーが「あずまや」にやって来て、ダビー小母さんが私に会いたがっていると言った。ダビー小母さんは勉強が私を傷つけて、「聖務」を果たせるどころか、どんどん堕落していると教えてくれた。書物が私の精神を主の方向にますます高めてゆくかわりに、堕落させつづけている。私はひどく悩み、心の葛藤を感じたので、夜遅くまで眠れなかった。今日私が聞いたところでは、戻って来たいという手紙をデメレストさんが書いてよこしたそうだ。

#### 1月22日（日）

ファーザーはダビー小母さんに、私が以前より良くなったと話した。ゴールデン・ローズ小母さんもダビー小母さんも二人とも、私が彼ら皆と、より内面的により緊密に結びつけられてゆきつつあるのを感じて、気分も良くなり、幸せに思っている。ジェイミーはベッシー小母さんに一切の過去のトラブルを忘れさせ、ファウラーさんがここを去る前、彼に会わせないため、ヴァインクリフに彼女を連れて来ようと未明にレストランに出掛けた。ファウラーさんはカンザス（Kansas）に行くため、正午の汽車でここを発った。ジェイミーと私がバターをとりレストランにいとってみると、小母さんだけが居て〔文字不明〕だった。

#### 1月23日（月）

今朝ゴールデン・ローズ小母さんが私に教えてくれたところによると、昨夜ファーザー



は随分興奮していたということだ。彼はヴァインクリフで何かが進行中であることを知ったのだ。彼はクラーク (Clark) [Samuel Clark] がグレイス姉さんを攻撃しているのを感じとったのだ。ファーザーは、私には内面的知識が必要で、外面的知識はそれほど必要としないと言った。私は新しい名前が欲しくてグレイス小母さんと話し合った。それから朝食後、フェアリーズ (Fairies) [恐らく Mrs. Harris] が私にフェニックス (Phoenix) という名をつけてくれた。ファーザーは私が勉学をやめることが神の聖旨にかなうことであって、彼ら皆を以前にも増して一層身近に感じることになるのだと言った。今夜ファーザーは私たち三人にご自分の名前をくださった。それでジェイミーはジェイムズ・リーカ・ハリス (James Requa Harris), テディちゃん (little Teddy) [Arthur Cuthbert. Jr.] はアーサー・リーカ・ハリス (Arthur Requa Harris), それから私はオリバー・クロムウエル・ハリス (Oliver Cromwell Harris) という名をもらった。ファーザーは、ヴァインクリフのことでとても頭を痛めている。リーカ (Requ) は今日、乾草を束ねるための輪を手に入れる取り決めをするためにフレドニア (Fredonia) に出掛けた。

#### 1月24日 (火)

ジェイミーと私はお互いを新しい名前呼びあって、しばらく時間を過ごした。今日耳にしたところでは、ファーザーがメアリー・マッコネル小母さん (Aunt Mary Mc Connell) には、現在のところ「聖務」への召し出しがないと判断したので、彼女はここを出てゆくということだ。ファーザーは彼女の家族には、多少の召し出しがあると考えている。ダビー小母さんとリーカ・ジェイミーはヴァインクリフに出掛けた。私はプロクトンさん (Mr. Procton) から、28ドル31セント封入の手紙を受け取った。私は過去の自分の惨めさと悲しみを思い出し、複雑な思いを感じた。

#### 1月25日 (水)

ジェイミーはメアリー・マッコネル小母さんを駅まで連れて行った。私の聞いたところでは、メアリー小母さんはここを出て行くことになったが、ちっとも不愉快な気持ちは持っていないということだった。しかし、私たちは彼女をとっても愛していたものだから、とても悲しく、憂鬱な気分だった。野村は彼が書き送った手紙に対する返書を湯地から受け取った。彼は彼の父の手紙を大至急送ったということであるが、私の金の問題については全く何も触れていなかった。彼は以前、14人の日本人が到着したことを私たちに知らせ、沢井 [森有礼] も彼等と一緒にだと思いつけ加えた。今日正午にダビー小母さんがやって来て、私の「聖務」の場が台所だというのは何と素晴らしいことだろうと私に話してきかせた。彼女自身「聖務」の場が最初に与えられた時、もっと偉大なわざをなしとげるような「聖務」の場が与えられなかったのは何故か、以前はいつも考えたのである。しかし、彼女は、なかなか手を切ることができない生来の利己心や目的を、完全に絶対的に消滅さ

せるために、この段階がどのように作用するかについて、私たちがよく分かっていないというのである。

#### 1月26日（木）

今朝、ファーザーとダビー小母さんは、私が大学に行く経費がどんなものか試しに計算していた。今日は泥の状態が、櫓で物を運ぶのにとっても良い具合なので、3組にわかれて丸太の運搬をする。今朝、朝食後私が台所で働いていると、ダビー小母さんが入ってきて、若い時、みかけはつまらない事をしていても、やがてこの世でもっとも大きな成果をもたらすことになる事がよくあるのは、何と素晴らしい事だろう、と話してくれた。キリストにしたところで、30才の時、彼が宣教を始めるまで、私たちは彼の青年時代についてほとんど何も知らないのだから。宣教以前のキリストは大工であったことが知られている。こうして最後には私たちの話はスエーデンボルグ（Swedenborg）のことになった。ダビー小母さんはスエーデンボルグの若い時の生活がどんなものであったか、正確には知らなかった。ただの数学者だったように思っていた。丁度その話をしている時ファーザーが台所に入って来て、私たちにチャールズ一世（Charles I）の時代のスエーデンで、彼は民間のエンジニアで測量技士をしていたのだと教えてくれた。彼は40才に至るまで書物を見ることも、ものを書き始めることも、ほとんどなかったという。ダビー小母さんとリーカはヴァインクリフに出掛け、6時までどって来なかった。苦しい一日だったが、こういう一切の状況下にあって、私は以前にもまして、より強められ、幸福であるを感じた。今夜ダビー小母さんが教えてくれた話では、ファーザーが私にもっと時間的余裕ができたなら、速記を習わせるつもりだ、ということだ。彼の考えでは、将来は、私には勉強が「聖務」になるだろう、ということだ。

#### 1月27日（金）

今朝、私たちは寝過ごしてしまって、朝食をつくるのに大変だった。ファーザーはバッファローにでかける予定だった。幸いファーザーはまだ出掛けていなかった。そして、夕方の方の汽車で戻ってきた。ゴールデン・ローズ小母さんと私はファーザーの部屋を隅から隅まで掃除した。トム・バックナーとシルヴェスターとマーチン博士とブラウネルさんがヴァインクリフのサマ・ルーム（Summre Room）の物置から、ファーザーの鉄製の金庫を持って来た。彼らは、ヴァインクリフでミュジデル（Muisidell）が暮らせるように、書齋を修繕しようなどと考えていた。全然愉快でない一日だった。私はカレッジに居た時フィスク教授（Prof. Fisk）と交わした会話を思い出した。あの先生がなさった随分得手勝手な話などなど思いだした。

## 1月28日（土）

ファーザーはずっと気分がすぐれなかった。それでダビー小母さんは、今日はヴァインクリフに行かなかった。ゴールデン・ローズ小母さんは、昨日より気分が良い。テディちゃんがグレンサイドにやって来て、ファーザーが特に彼のために昨日バッファローで買ってきた珍しい櫓にのって、丘ですべて遊んでいた。今夜、私が「あずまや」に出掛ける時、ファーザーは何か書き取らせていた。

## 1月29日（日）

私たちは今朝は6時過ぎまで起きなかった。ファーザーとダビー小母さんは10時頃朝御飯を食べた。ファーザーは一日中とても元気がなく苦しんでいた。そしてダビー小母さんも疲れていた。私たちは皆ありあわせの物で食事をした。リーカと私は、櫓でテディをヴァインクリフにつれて行き、そこでお茶を飲んだ。フォスターさん（Mr. Foster）もやってきて、ファーザーが作った新しい賛美歌を歌って非常に愉快的時を過ごした。私たちが帰ってきた時、ファーザーは口述筆記させているところで、とても低い声で話していた。彼は深い内省状態にあるようだった。

## 1月30日（月）

私たちは6時になってやっとグレンサイドに着いた。ゴールデン・ローズ小母さんは私に、自分は1時か2時にならないと寝ないから、早く来なくて有り難かったと言った。ダビー小母さんが私に今朝教えてくれたところでは、昨夜私たちがグレンサイドについて2、3分後、ファーザーは、私たちが彼を助けてくれるので気分が良い、と言われたということだ。つまり、私の弱さが自然的な野心の中に横たわっていること、そして、それを克服するため戦っていることを、心から納得してくれたからというのだ。昨晚ファーザーは大変な苦しみようで、それは主に年とったイギリス人の「働き」が原因で苦闘しておられたのだ。ゴールデン・ローズ小母さんは大変困難な一日を過ごしたようであったが、私はこれまでよりずっと力を感じ快調だった。私は鶏小屋を作ったりした。サムは新しい台所に使うストーブの薪を運んだ。ファーザーは私たちが「あずまや」に行くためグレンサイドを出た時は口述筆記させているところだった。

## 1月31日（火）

ファーザーはほとんど一日中家に居た。ダビー小母さんは「あずまや」に出掛けた。最初の連続販売で、ダビー小母さんが日曜日に売った店の品を、受け取りにマーチン先生がやって来たからだった。私たちは12月22日付江戸発信の森からの招待状を受け取った。ダビー小母さんもサンフランシスコの書記官（Secretary）宛に、折り返し森宛の手紙を書いた。ダビー小母さんは私たちに、ファーザーは今「天使の知恵」を口述筆記させている

ころで、それは最も素晴らしいものだ、と教えてくれた。ファーザーは夕方大変苦しんでおられたが、お茶がおわるとすぐに口述筆記を始められた。リーカは仕事に使う輪をもっと長くできないか確かめに、ダンディ (Dandy) をつれてフレドニアに行った。ハイド博士がダビー小母さんに会い、乾草の圧搾機のことなど話するため、やって来た。

## 1871年 2月

### 2月1日 (水)

ファーザーは天気が大丈夫なのをみて、排水渠に出掛けて行った。彼は午後もまた天気の良い間にと考え、出掛けて行った。ダビー小母さんは今日、とても調子がいいようだ。ところがゴールデン・ローズ小母さんは情け無い状態だ。彼女は風邪をひいてしまったと思っている。喉が酷く痛むからだ。私がグレンサイドを出た時、ファーザーはクラークとエマソン (Emerson) のことで、とても頭を悩ませていた。

### 2月2日 (木)

ファーザーは天気が良い間に仕事を済ませてしまいたいと考えて、朝とても早く、排水渠に出掛けて行った。彼は夕食に帰宅しなかったので、私たちはサムにそれを持たせてやった。家では特に何も料理はせず、間に合わせのもので済ませた。今朝フォースターさん [Fisher] がグレンサイドにやって来て、サラ・ウィルダーさん (Miss Sarah Wilder) が着いたと言った。それで、グレース姉さんがウィルダーさんを迎えに行けるように、私がダンディに引き具をつけ、それをフォースターさんが彼女の所まで連れていってくれた。ファーザーはバーズネストの梱包場 (Packing House) がきたないのですっかり気分がわるくなっていた。それで食事がほとんど喉を通らなかった。ファーザーはとても今夜は疲れ憔悴しているようだ。ダビー小母さんとリーカは大きな馬車に乗ってファーザーを迎えに行った。この時突然ひどい風が吹いて、ホテルの煙突の一つが吹き倒されたりしたという話だ。私は風がひどく吹きつけるし、それやこれやで「あずまや」にもどらなかった。それに、私は今日の午後、頭を納屋のドアで、それはそれはひどく打っていたのである。

### 2月3日 (金)

ファーザーは皆がうまくやっているか見るために、今朝森に出掛けて行った。ダビー小母さんはファーザーの持ち物を取りまとめるために、ヴァイン・クリフに行った。彼女はまた、サラ・ウィルダーさんにも会った。ゴールデン・ローズ小母さんが喉をひどく痛めているので、ホール先生が昼の汽車で診察に来ると約束してくださった。それで、私は先生を迎えに駅に行った。私は一日中一刻の休みもなく仕事に追われていた。ファーザーはあまり苦痛がひどくて見に行けなかった。それでダビー小母さんが代わりに行った。

ファーザーが苦痛を感じていたのは主としてエマソンとクラークのことであった。今晚トム・バックナーがここに来て、馬鹿者がヴァイン・クリフの窓を壊してしまったなど話してくれた。この馬鹿男は、マーチン（Martin）とスキナー（Skinner）とムーア（Moore）の手で捕らえられて、村に連れて行かれたそうだ。ジェイムズがそれを見ていて教えてくれた。

## 2月4日（土）

ファーザーは全く疲労困憊の状況で、私たち誰もがとても悲しく、みじめな気分だった。ファーザーは午前中ずっと、いつもの状況でなかった。夕食後、ダビー小母さんが台所に来て、「ファーザーは霊界（the spiritual world）のとても素晴らしい事象を見ておられるのだから、私たちがどれ程苦しくても、酬いられるようになるのだよ」と私に教えてくれた。彼女が言うには、私たちの苦しんでいる理由は悪霊達（Demons）の二軍団がお互い恐ろしい戦いをしているからだ、とファーザーがおっしゃったということである。一隊は新しい秩序に全く反対するもので、私たちに敵対し争っているものであり、もう一隊は自分たちも自身何らかの形で利益を得ることが出来るので、敵対しないよう組織づくりをしているのである。ファーザーとダビー小母さんは歩いて駅に行った。ファーザーは私が「あずまや」に行くため家を出る時、口述筆記をさせていた。

## 2月5日（日）

昨夜リーカと私は、レストランに行った。フォースターさんから、簿記を習い始めたからだ。これまでにない最低気温の寒い晩で、私は眠ることができず、起きて火をおこした。丁度うまく火がおこってきた時、煙突のパイプがはずれて落ち、それを取りつける間恐ろしい思いをした。私は3時間しか眠らなかった。エマソンさんはレストランに着くと、ファーザーとダビー小母さんに会いに、グレンサイドまで足を伸ばしてやって来た。ファウラーさんも到着し、ホテルに泊まった。リーカと私はそれぞれ自分の事をする自由な時を過ごすために、ヴァイン・クリフに行った。私はクラークさん、サラ・ウィルダーさん、それにフォースターさんに会った。私はグレイス姉さんとウィルダーさんが似ているのに驚いた。ゴールデン・ローズ小母さんの喉の具合が前より悪化したのでホール先生がグレンサイドにやって来た。

## 2月6日（月）

リーカは今朝早くレストランに行った。エマソンさんに、ダビー小母さんが会いたがっているから、帰らないでグレンサイドに来てもらいたいと伝言を届けた。ダビー小母さん、ゴールデン・ローズ小母さんと私はみじめな気分だった。私は夕食後ダビー小母さんと森に行った。小母さんは、私が少し変わる必要があると考えていた。サラ・ウィルダーはお

昼の汽車で行ってしまった。ダビー小母さんはセイレム・オン・イーリー (Salem-on-Erie) に戻って来るようにと、ヴィオラ小母さんに手紙を書いたそう。ファウラーさんは今日行く予定だったが、とても身体具合が悪いので、行こうにも行けないので、ホテルに足留めになった。ダビー小母さんは、もし天からくだり働く流れに身をまかせることができさえすれば、大変な力を備えた人々が生まれるだろう、と教えてくれた。私たちの精神は、日々のつまらない心配事にとらわれて、私たちの大きな目的がどんなものか、皆忘れてしまうのだ。彼女はこう言っている。「森にやってくると環境の影響で深い精神状態 (internal states) になる。一本一本の木が生命の根源に更に近づくように、「聖務」を果たそうと絶えず身の丈を更に高く更に高く伸ばしている。いっぽう私達は自我に目をうばわれ、自己の様々な利益にまみれて、絶えず低い方向に目をむけている。」そのほか、中枢にいる責任ある人物 (pivotal man) というものは、どんなにか恐ろしい生にも耐えなくてはならない、など話された。

## 2月7日 (火)

今朝、私はファーザーとダビー小母さんが一階に居るのを知った。どうやら、ファーザーが苦しい時間を過ごしたようだ。ファーザーは森へ行った。ダビー小母さんとリーカはレストランに行った。ダビー小母さんは、レストランや種苗店 (Nersery) の看板を書くためウエストフィールド (Westfield) からやってくるペンキ屋に会いたかったのだ。今日、大工のグロスさん (Mr. Gross) が解雇された。天候が穏やかなので、今、乾草圧縮の作業中だ。私たちは昨日と比べてずっと気分が良い。リーカと私はフォースターのところへ勉強に行かなかった。リーカがとても疲れていて、(文字不明) がなかったからだ。

## 2月8日 (水)

リーカと私は、何時だったかわからないが、とにかく今朝とても早く起きた。ファーザーは夜苦しかったようだが、非常に早く床についた。ダビー小母さんとリーカはヴァインクリフに行った。家の者一同もでかけ、ファーザーの持ち物などを取りまとめた。そして、5時迄戻って来なかった。ファーザーは午後何度か外出した。ダビー小母さんはわたしに、ウッドバイン小父さん (Uncle Woodbine) [オリファント] の「聖務」はここでなくイギリスにあるのだから、戻ってきても、ここには長くは居ないだろう、と教えてくれた。私は今日はレストランに二度出掛けた。私たち全員、すべての点でいつもよりずっと良い気分だった。鹿毛のチーム (Bay Team) が葦毛の代わりに乾草圧縮に使われている。こいつは今、すごく良く働く。ダビー小母さんは今夜とても疲れている。一日中ひどく働いていたからだ。

## 2月9日（木）

ファーザーは今朝とても調子が良いようだった。ダビー小母さんはとてもみじめな様子に見える。ファーザーとダビー小母さんは二人とも家に居た。リーカは釘の樽をとり、ダンカーク（Dunkirk）に行った。私はゴールデン・ローズ小母さんと、これまでの2、3日と比べてずっと心が通じ合うように思う。私はヴァイン・クリフに、オイダ（お江戸？）から野村宛に来た手紙をとりに行った。それから氷を少し取りにロッジにも行った。お茶の後リーカと私は、バターとミルクを取りにレストランに行った。フォスターさんはひどい悪性の風邪をひいて、ひどく咳をしていた。今夜ファーザーは口述筆記をするつもりだ。

## 2月10日（金）

ファーザーとダビー小母さんは、今日は相当、体の具合が悪い。ゴールデン・ローズ小母さんはとてもいらいらしていて、気分が良くないといった。ダビー小母さんは私に「ゴールデン・ローズ小母さんを充分よく世話してあげる必要がある。そうでないと、彼女は春が終わるまでもたないかもしれない」とファーザーが言っていたと教えてくれた。ダビー小母さんは私の代わりに夕食の皿ふきをしてくれた。また彼女はファーザーが作った新しい賛美歌を歌ってくれた。これは、彼女が二日前に新しい歌詞をつくったものに曲をつけたのだ。彼女は私にこの新しい賛美歌の意味を説明してくれた。彼女はまたほかに、沢山興味のあることを教えてくれた。夕食後ファーザーは乾草圧縮作業を見に行った。リーカと私は乾草圧縮作業を見に古い倉庫に行き、風で開いたままになっていた戸を閉めておいた。私はまたミルクを取りにレストランに行った。お茶の時間の前になると、ファーザーはそれほど苦しいようには見えなかった。しかし、私たちがグレンサイドを後にすると、床に入った。今日も私にとって、ひどく苦しい一日であったが、ダビー小母さんの有難い（precious）話をきいて、ずっと楽になりずっと元気になった。

## 2月11日（土）

今朝、ダビー小母さんはファーザーがあらゆる病気という病気を背負いこんで苦しんでいるようだ、と言った。ゴールデン・ローズ小母さんは私に「妖精たち（Fairies）がゴールデン・ローズ小母さんのことで昨夜会議を開いた」とファーザーが言っていたと教えてくれた。彼らの考えではどうしてゴールデン・ローズ小母さんがもっと平和に暮らせないのかわからないと言うのだ。ファーザー自身彼女のことで気持ちが休まらないのだ。今朝アルフレッド・バックナー（Alfred Buckner）とアーサー小父さんがやって来て、バックナーの「働き」（sphere）がほんとにひどくファーザーを傷つけたようだ。ゴールデン・ローズ小母さんは、私に今日、これからは、わたしたちがもっと早く仕事を切り上げて、バウアーに戻る方がいいよ、と言った。ホール先生がゴールデン・ローズ小母さん

を診察にやって来た。そして彼が戻るとダビー小母さんが彼女をウエストフィールドに送って行った。ファーザーが彼女には休養が必要だと思ったからだ。ファーザーは今日午後長い間眠っていた。

## 2月12日（日）

ファーザーは一日中深い思索のなかで苦しんでおられるように見える。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんはいつもより具合が良いようだ。今朝3人の人物がファーザーに会いに来た。ビオラ小母さんはお昼の汽車でニュージャージーから戻ってきた。リーカはグレンサイドに彼女を連れてきて、それからヴァイン・クリフに連れていった。ダビー小母さんが私に教えてくれたところでは、ファーザーは私のことをクロムウエルと呼ぶよりオリバーと呼ぶ方が良いと思っているそうだ。今日の午前中はいつもにない幸福感を感じたが、午後になるとみじめな気持ちになりはじめ、頭痛さえおこって苦しかった。今夜私がグレンサイドを出た時、ファーザーは口述筆記をさせていた。

## 2月13日（月）

ダビー小母さんもゴールデン・ローズ小母さんも、ファーザーは昨夜休みなしに3時間口述筆記させたと私に教えてくれた。ダビーはそれはこれまで書いたことのある一番長い筆記で、その間いつものように体を伸ばすような時が一度もなかったと言った。こういう理由で彼女は極度に精力を使い果たし、疲れきっているように見えた。朝食後ファーザーは陽がかけられないうちに材木を運搬するため森に出掛けた。そして、トム・バックナーがチェーンをもって行ってしまって、一つのチームが仕事を停止させられたために、非常にがっかりして帰って来た。私たち皆がとても惨めな気分だった。ファーザーは非常に心を痛めていた。主に第一連隊（first series）が原因で、それも特に、トム・バックナーのぶっきらぼうな態度が原因で、そうだった。そこでファーザーはトム・バックナーにメッセージを托し、誰もここに来ないように、また、もし相談したいことがあるならば、若い者に託して届けるようにと言った。というのも、ファーザーとゴールデン・ローズ小母さんは大変な心痛で、その「働き」（sphere）から目がはなせないのである。私はダビー小母さんが、休養のため7時の汽車でウエストフィールドに出掛けるつもりだと思っていた。しかし、ファーザーがひどい心痛状態にあったので彼女は行けなかった。ちょうどお茶の時間の頃ファーザーは苦悩の頂点にあり、口述筆記を始めた。リーカとバンクスター（Bankster）は鶏、あひる、七面鳥と孔雀をヴァイン・クリフからもって来た。そして孔雀の一羽はグレンサイドの鳥小屋から飛んでにげて行った。

## 2月14日（火）

ファーザーは神秘的な疲労困憊の状況にあるように私には見えた。私はそのことについて



て何もきかなかったが、そう見えた。ゴールデン・ローズ小母さんは私に、ファーザーは粗野な鉄道技師と、上品ではあるが傲慢な教会監督の信心深さと謙遜さについて、最高のすばらしい著述を口述筆記したと教えてくれた。この両者の精神世界をファーザーは覗いたのだ。ダビー小母さんは、具合がいつもより良い様に見える。ゴールデン・ローズ小母さんと私自身もそうで、ずっと幸福な気分だった。ファーザーは今日の仕事の手始めに、ホテルに入って行った。それから午後はリーカとダンディと過ごした。夕食のあとリーカと私は逃げた孔雀を探しに行ったが、一生懸命探したが無駄だった。ファーザーは、「昨夜リーカが、大した必要もないのに、長時間俗人と接触したのはよくなかった」と言った。彼は頭を使いすぎて、また発作が起きたようだ。それで簿記の授業にレストランに行くのを止めないといけないと言った。ファーザーはとても楽しげだった。私たちは彼の陽気な笑い声を聞いた。それから彼は私たちが九時頃グレンサイドに帰る前に床についた。

## 2月15日（水）

私は今日、ファウラーさんが月曜日にセイレム・オン・イーリーにむけクリーブランドをたつたと聞いた。ファーザーも皆も、ずっといつもより気分がよく幸福そうに見える。リーカはファーザーを酪農場に連れていった。鶏が2羽死んだ。私が見つけた1羽は何かに食われていて、2枚の板の間に引きずり込まれていた。ベッシー小母さんはとても気分が悪くて一日中ベットに横になっているという話だった。リーカが今晚話して聞かせてくれたところによると乾草圧搾作業は昨日から納屋に場所をかえて始められたとのことだ。ダビー小母さんは私に、「キューバ（Cuba）の国民感情が、アメリカに併合されるのを望むだろうか。それを確かめるための委員たちがキューバに向かうというが、その汽船のことは何一つ話を聞かない。この船には乗客の一人として（ホワイト大統領）が乗っている」と話してくれた。またダビー小母さんの話では、「温室（Green House）のことを考えるたびに彼女は気疲れがして、頭痛が起こる」そうだ。また今日のファーザーの話では、「在庫用に板を購入する全責任をガラハーさん（Mr. Gallagher）とザッキー（Zackie）[農場の総監督 Zackie とは、Zack Backner] に持たせるつもりだ」ということだ。

## 2月16日（木）

今朝、ファーザーが朝食をとる前に、ゴールデン・ローズ小母さんは、彼の体をマッサージした。彼があちらこちらに痛みを感じたからである。一人一人が実に健康に見えた。近所のアイルランド人が、自分の庭で孔雀を見たと私たちに知らせるために3度グレンサイドにやって来た。ベイチーム（bay team）といっしょにチャーリー・フィッチ（Charlie Fitch）に私たちは材木を運搬してもらった。ダビー小母さんは今日午前中レストランに行った。ファーザーは酪農場に行った。

## 2月17日（金）

ダビー小母さんが今朝教えてくれたところでは、ファーザーは昨夜私たちが出て行くとすぐ口述筆記をはじめたということだ。彼女はそれが非の打ち所のない素晴らしいものだったと言った。ファーザーは朝食後すぐ口述をはじめ、正午までしていた。ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんは二人とも、もう疲れてしまったように見える。今日は私にとって、特別にきつい、苦しい一日だった。ダビー小母さんが私の代わりに晩御飯のお皿を洗ってくれた。私は小母さんに今ファーザーが口述しているこの本はもう一つの本の続きなのかと尋ねた。彼女はそうではないと答えたが、こんどのも前と同じ性質のもので、とのことだった。この本の名は『一致に関する天使の知恵』（Wisdom of Angels concerning Solidarity）という。ハイド博士がやって来て、氷は今日届くだろうと知らせてくれた。

## 2月18日（木）

ファーザーは一日中ほとんど家に居なかった。朝は口述をしたが、夕食後彼は眠りに行き、お茶のあとまた口述筆記させた。私はいつもよりずっと幸せだった。ゴールデン・ローズ小母さんは「ホール先生に手紙を書いて、小母さんの喉が前より悪くなったし、またファーザーも喉が悪くてヒリヒリするし、ダビー小母さんがとてもひどく弱っているからきてくれるように言ってくれ」とリーカに頼んだ。しかし、汽車が1時間半も遅れたので、先生は来なかった。ゴールデン・ローズ小母さんがこのことを私に教えてくれた。ファーザーは昨日精神界の魚釣りに行った。そしてこういう話をした。天においては準備のととのっている状態にない魚介類は水に投げ戻される。もし準備ができていれば、いわば魂とでも言うべきものと内的萌芽（germ）が、その真の場所に移され、カラ（shell）や体は食物として食べられる。魚に関しては、丁度私たち人間がこの地上に住むように、愉快的な感覚を持っており、来世へと昇って行くのだ。この地上でお互いに極めて細やかな優しさで愛し合う人々は、来世も同様親しく生きる。ゴールデン・ローズ小母さんはまた私に天国でも天使はこの地上で私たちがするように、お互いにキスし合うのだと教えてくれた。昨日午後、ショウトウカ湖（Chautauqua Lake）から、荷車2台分の氷がここに届いた。

## 2月19日（日）

ゴールデン・ローズ小母さんの気分がすぐれなかったので、ヴィオラ小母さんが今朝グレンサイドにやって来て、彼女をさすってくれた。ファーザーは朝食前、賛美歌を口述した。リーカが夕食後ヴィオラ小母さんを家まで送ってゆき、ドーラとテディを連れて来た。ドーラは私たちの部屋で写真を選んで、とても綺麗にそれを張りつけてくれた。ゴールデン・ローズ小母さんは私に今朝ファーザーが定期刊行物を、まもなく出すつもりだと教えてくれた。それは非常に薄いものだが、内容的には重みのあるものだろう。私たちは、

ファーザーと同席して、皆いっしょにお茶をいただいた。彼は極めて幸福そうに見えた。私たちは妖精たち（Fays）がファーザーの口を借りて話すのを聞いた。天国では、天使たちはいつも、どんどん若返っていくのだ、というような話だった。リーカと私はドーラとテディとヴァインクリフに行きそこに止まり、ヴィオラ小母さんの音楽を聴き、またグレイス姉さんが上手に歌うのを聞いた。今朝ゴールデン・ローズ小母さんは私にこう教えてくれた。最近ファーザーは、ヨーロッパに三色旗のひるがえる幻を見た。この三色旗の中には金の王冠が書き込まれていて「自由」と書きそえられていた、とのことだ。今日スウェーデン人たちは、皆で氷を車から降ろす作業に従事した。私はファーザーが今夜とても早く就寝したということを聞いた。ファーザーとダビー小母さんは、夕食後すぐ、私たちがバウアーに居る間、馬に乗って森をひと駆けした。

## 2月20日（月）

ファーザーは今朝口述を書き取らせた。ダビー小母さんはゴールデン・ローズ小母さんともう一人の人物のためにトリビュン（Tribune）紙を持ってきて、サンフランシスコに（文字不明）商會がやって来たことについて読んであげた。ダビー小母さんはその時、ファーザーが今朝ある論説を書き取らせた、と私たちに言った。ファーザーは彼の著述のあるものを販売するつもりだ。しかし、学校、図書館、著名人などには、大体無償配付するつもりだ。それは、この人たちが彼の著述を非難したり、誤解したりしないためだ。また彼女の話では、ファーザーは昨日小母さんらと森を散歩していたとき、彼の家を建てる場所を見つけたということだ。ファーザーは、300ポンド持っていさえすれば、すぐにでも本が出版できるのに、と思っているということだ。ダビー小母さんの話では、「うちのワインは他のどんなワインも持っていない特質を備えている。誰でもそれを飲めば、その飲む人を大いなる（天の恵み）にひたらせ、その結果それが徐々に善と悪とを区別することになる。ワインによって得られる金は出版に使われ、人類の救済のために、内面からも外面からも作用するだろう」ということだ。ジャドスン（Mr. Judson）さんは明日プロクトンで行われる選挙の件で、今日ファーザーに会いにやって来た。ファーザーはとても煩わしいようだったが、私が「あずまや」に行くため家を出た時には、口述筆記をさせていた。ゴールデン・ローズ小母さんは少し気分が良かったが、喉のほうはひどく悪くて、ホール先生が正午の汽車で彼女の診療にやって来た。

## 2月21日（火）

ダビー小母さんとゴールデン・ローズ小母さんの話では、ファーザーは私に、ダビー小母さんと協力して、ファーザーの口述筆記をさせるつもりでいる。つまりファーザーの話すことを、私がだんだん速く聴き取れるようになるためだ、ということだ。ファーザーはとても調子良くなったようだ。彼は10時か11時頃、選挙に出掛けた。ダビー小母さんは夕

食後レストランに出掛けた。彼女の話では、私に暇を作るために、調理の役をだれか女の子にさせないといけないというのだ。ゴールデン・ローズ小母さんは喉をひどく痛めているようで、声がかすれている。ファーザーは今朝、「私の部屋の中には生命力がこもっているから、そこにできるだけ長くとどまっていけないといけない」と彼女に言った。ファーザーはお茶のあと暫くの間とても苦しんでいた。そしてすぐ口述筆記が始まった。私がグレンサイドを出た時、ファーザーは口述筆記をまだ続けていた。私は私の七面鳥小屋（Turkey House）を完成し、初めて2羽の七面鳥をそこにに入れてやった。ダビー小母さんは、もし私がファーザー宛に来る手紙の返事を書くことを覚えてくれれば、とても嬉しいだろうと言っている。

## 2月22日（水）

私はファーザーが階下に居るのを見たが、とても顔色が悪く、ずっと遠くのほうにいますような感じだった。私はダビー小母さんが昨夜とても疲れていて、ほとんど何も書けなかったということを耳にした。ダビー小母さんも、ゴールデン・ローズ小母さんもとても調子が悪いようであった。ファーザーは朝食後、沢山の手紙を口述した。私は私が書いた手紙を湯地とダビー小母さんに渡して、訂正してくれるように頼んだ。とても良い天気の日だった。ファーザーとダビー小母さんは夕食後外出した。ゴールデン・ローズ小母さんは初めて長い時間玄関に出ていた。彼女は今夜はいつもより、気分が良さそうだった。ファーザーはいつもと同様口述筆記にかかりきりで、精一杯いそがしくしていた。ホテルからやってきたスエーデン人の女の子が新入りの女の子を連れて来た。今日午後この娘がグレンサイドで仕事をした。今日午後私はヴァインクリフとバーズネストに行った。ヴィオラ小母さんは私が答えたくない質問をいくつかしたが、私は彼女にできるだけうまく説明した。ダビー小母さんは、ファーザーがバッファローに行くつもりだから、彼女のところに6時に寄ってもらいたい、と私に言った。

## 2月23日（木）

ファーザーは歯医者に見てもらうためと、多少食料を手に入れるためにバッファローに行った。リーカは彼が（文字不明）に会いにもっと早く行くのを忘れているので、それをととても苦にやんでいるようだった。私はファーザーを駅に連れていった。私は今朝ダンディをつれて温室（Glass House）に行き、何枚か羽目板を交換した。ダビー小母さんと私は、ファーザーの部屋の張り出し窓に花を取りつけるのに、ほとんど一日中かかりきっていた。それから窓をすみずみまで掃除し、綺麗に拭いた。今朝、スエーデン人の女の子の（一字不明）が一人やって来て、一日中仕事をした。私の大切なゴールデン・ローズ小母さんは、とてもみじめな気分だ。ファーザーは7時の汽車で帰ってきた。彼はゴールデン・ローズ小母さんの部屋に行き、彼女の気分がとても優れないので、気分がよくなるま

で、ずっと彼女をさすってやった。ヴィオラ小母さんの現状は、内的にシーヴィーさんの「働き」の影響も作用しているようだ。私はとても疲れきったように感じた。リーカは私に、乾草圧搾機がまた動き始め、納屋の中に移されてからとても役にたっているようだと言ってくれた。

## 2月24日（金）

リーカはとても早く起床した。それで、私も4時頃目を覚ました。私は一日中頭痛などのため、みじめな気分だった。ゴールデン・ローズ小母さんは「私が湯地宛に書いた手紙は、もう先方に届いているに違いない」と考えている。ファーザーは一日中家にいた。ダビー小母さんは、ベッシー小母さんからファウラーさんの手紙を同封した短信を受け取った。ダビー小母さんは、ベッシー小母さんが精一杯気張って、彼に敵対して闘うに違いない、と言っている。ダビー小母さんはまた背中が痛くてひどくいやな気分のようなのだ。彼女は今日午後6時までバッファローに出掛けて行った。休養をとりにいったのだと思う。

## 2月25日（土）

ファーザーは10時迄朝食をとらなかった。彼はずっと苦しんでいたが、シーヴィーとグラントとクラークがその最たる原因だった。ゴールデン・ローズ小母さんは前より気分が良い。ファーザーは沢井（森）から2月1日付サンフランシスコ投函の手紙を受け取った。彼は今月19日そこを発つつもりだという。そして14人の日本人といっしょにここに泊まる等々ということだ。約10分後、モーニー（Mornie）が電報を持って来た。それには、沢井は2週間以内にはここに来ないと書いてあった。私もまた杉浦から368.18ドルの小切手同封の手紙を受け取った。それで私は杉浦あてに領収書と短い手紙を書き、4時の汽車で送った。リーカは乾草圧搾機が破損したのを調べにダンカークに行ったが、ファーザーはリーカから満足な返事をもらえなかった。それで、自分も4時の汽車でダンカークに行った。それから7時の汽車でダビー小母さんと戻って来た。ファーザーが今購入を考えている土地の件で、ダンカークからスミス（Smith）さんが、ファーザーに会いに、今晚やって来た。ゴールデン・ローズ小母さんの話では、ファーザーが「自分を亡きものにしようとする仏教徒と、昨夜激しく闘った」と言ったという。私は気落ちしてしまって、ダビー小母さんが帰って来るまで一日中みじめであった。私にとって彼女は救い主のようなもので、彼女の帰宅でずっとずっと幸福になった。

## 2月26日（日）

ファーザーは一日中、ファウラーやクラークなどのことで、とても苦しんでいた。ダビー小母さんの意見では、杉浦の手紙には、とても邪悪な「働き」が作用しているということだ。まさにその同じ件で、私は本能的作用がむらむらと私の心の中に湧きおこり始め

たのを感じる。そしてそれを沈めるのに、何時間も苦勞した。ダビー小母さんの話ではファーザーは外面的世俗的な仕事についてはもう何もするつもりはなく、彼の時間のすべてを挙げて内面的精神的な仕事に捧げるつもりだということだ。リーカはレストランで暮らすことになるだろう。また、今と違ってそこからファーザーの仕事をするため帰ってくるのだ。ファーザーは宵のうちずっと口述筆記をさせていた。しかし、私が、グレンサイドに帰って行く時は、休んでいた。リーカはヴァインクリフに行っていた。そしてこちらに一時来てから、グレンサイドに私のあとから行くつもりだった。しかし、私は仕事と健康が理由で、そちらへは行けなかった。彼は今夜からホテルで眠り、それで私はバウアーで独りぼっちだった。

## 2月27日（月）

ゴールデン・ローズ小母さんは、私たちの大切なダビー小母さんがひどく気分が悪いと教えてくれた。また、彼女は私に彼女のストーブとたきつけ用の木を補充しておくのを私が怠っているなどといった。彼女はファーザーが彼女といっしょにほとんど一晩中起きていたと言っている。ダビー小母さんは一日中気分が悪く、階下のファーザーのソファでずっと横になっている。ファーザーも風邪をひいて一晩中苦しみ、それに喉もとても痛むという。彼は一日中屋内にいて、とても苦しんでいた。ゴールデン・ローズ小母さんは前より良くなったようだが、疲労困憊の様子だ。今日から新しいスエーデン人の女の子が仕事にやって来た。彼女がレストランにいるのをいやがったからだ。私たちはベルリン発信の有馬（Arima）の（文字不明）手紙を同封した、湯地からの手紙を受け取った。私は杉浦に手紙を書き、また湯地にも送っている。夕方のダビー小母さんの話では、今日杉浦とウッドバインに手紙を書くつもりだったが、実行できなかったということだ。ファーザーがリーカをダンカークに行かせたいというので、今日午後わたしはリーカを探しにいった。しかし、馬を走らせて精一杯やってみたが、結局リーカはみつからなかった。私は今朝、自分がしている仕事のことなどについて、私が現在感じている思いについて、ゴールデンローズ小母さんと話をした。今夜ファーザーは今夜長い間眠っていて、8時30分になってやっとお茶をとった。お茶の後、彼はひどく苦しい様子だった。私は昨日とくらべ、それ程良くなったような気がしなかった。

## 2月28日（火）

ファーザーとダビー小母さんは階下で眠った。ファーザーは、一日中、半ば気もそぞろの状態だった。ダビーおばさんは、昨日と変わらず、気分がひとつもよくなっていない。今日ダビー小母さんは沢井から2月24日付けイリノイ州ブダ発の手紙を受け取った。それには、何故彼が、真っ直ぐこちらに来れないのか説明してあった。私は湯地と杉浦から手紙を受け取った。ファーザーはトリビュン紙掲載の、プリンス（the Prince）と森につい

ての記事を何行か読んでくれた。今日ファーザーは、ヴァインクリフを改造して学校を造り、日本人がそこでカレッジ入学の準備ができるようにしよう、クラーク夫妻は優れた先生であり、もし日本人たちが希望するなら、自分が、ほかにも必要な先生を連れてこよう、と言った。彼は案内書を印刷し、日本語に訳し、日本に送ろうとつけくわえ、冗談めかした言い方で、自分の学校はいわゆるキリスト教は教えない、とも言った。ダビー小母さんは森に手紙を書き、またゴールデンローズ小母さんと私も、一筆したための小紙片を同封した。私はあまり何もせず、新しく来たスウェーデン人の女の子に、日本人たちの部屋を準備することなどを教えてやった。今日、私はとても疲れを感じ、喉が痛み、さまざまな自然条件にともなって、いろいろ利己心を感じるのであった。私は、何通かの手紙を、記録簿に写した。

—— 未完 ——